

事務事業評価&総合計画実施計画調査シート

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	709 健康づくり推進事業	会計	01	一般会計
基本	01 10万市民の健康を維持する	款	04	衛生費
策		項	01	保健衛生費
策	2 ライフスタイルに応じた保健予防対策の推進	目	01	保健衛生総務費
		細目	106	健康21推進事業
		細々目	02	健康づくり推進事業
基本計画該当頁		58~61		行革大綱の重点事項番号
				7
担当部課	コード	603000		評価者
	名称	島ヶ原支所 住民課		氏名
				山本 繁昌
		連絡先	59 - 2163	
			(内線) 30	

事業の計画・内容

事業目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
	・健康の保持増進、食生活の改善に関心を持つ市民 ・小学生と保護者 (※対象件数)	・日常的に健康に配慮した食生活を送る。 ・親子のふれあいの場と食生活への関心を持つきっかけづくりになる。
事業内容	《食生活改善教室》 食生活改善推進協議会が中心になり、高血圧予防、カルシウムアップ、高脂血症予防などをテーマに食生活を見直す教室を実施 《親子ふれあい料理教室》 親子のふれあいと食育を目的に親子の料理教室を夏休み期間中に実施	教室の内容や運営などは食生活改善推進協議会を中心に行っており、今後も地域の健康づくりのリーダーとして活動を推進していただけるように支援が必要である。
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 16 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
事業内容	状況変化等	

整備内容

1 建設用地	千円	1 運営主体	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 民間委託等
2 建設面積(延床面積)		委託先	人 千円
3 規模・構造		2 配置(予定)人員	
4 総事業費		3 年間運営費	
		4 市内の類似施設	

進捗状況	年度	平成18年度 決算内容			平成19年度 決算内容			平成20年度 計画内容			平成21年度 計画内容			平成22年度 計画内容			平成23年度 計画内容								
		事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額				
委託	工事	需用費			(千円)	49			(千円)	36			(千円)	31			(千円)	31			(千円)	31			
進捗率(%)		事業費計(A)	Σ	49	事業費計(A)	Σ	36	事業費計(A)	Σ	31	事業費計(A)	Σ	31	事業費計(A)	Σ	31	事業費計(A)	Σ	31	事業費計(A)	Σ	31			
事業投入人員		人件費(B)	0.1	人	720	人件費(B)	0.1	人	720	人件費(B)	0.1	人	720	人件費(B)	0.1	人	720	人件費(B)	0.1	人	720	人件費(B)	0.1	人	720
フルコスト(A)+(B)				769			756			751			751			751					751			751	

事業費(人件費除く)の財源内訳

(A)	事業費	49	36	31	31	31	31
Aの財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	受益者負担	9	12	13	13	13	13
	その他						
	一般財源	40	24	18	18	18	18
	計	49	36	31	31	31	31
備考	その他特定財源の名称・補助基本額・地方債の区分と充当率等						

事業種別	継続	単独	事業類型	I	ソフト事業	2次評価対象分
------	----	----	------	---	-------	---------

事業実績

活動指標	単位	実績値		目標値	
		H18	H19	H20	H21
食生活改善教室開催回数	目標	5	5	4	4
	実績	4	4		
親子ふれあい料理教室開催回数	目標	1	1	1	1
	実績	1	1		
	目標				
	実績				

評価指標

事業の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
			H18	H19	H20	H21
食生活改善教室参加者数	食を通じて健康づくりに対する関心度を見る	人	目標	50	目標	50
			実績	46	実績	35
親子ふれあい料理教室参加者数	親と子が食生活や健康に対しての関心度を見る	人	目標	20	目標	30
			実績	26	実績	11

評価

評価項目	ポイント	評価項目についてのコメント
必要性	4	健康づくりの取り組みとして、食生活改善や食育は重要である。食生活改善を地域に広める自主的な活動組織である食生活改善推進協議会の推進員のスキルアップや活動の支援は市民の健康づくりを進める上で必要なことである。
有効性	4	参加者数から十分な成果は上がっていないが、食生活改善推進協議会はシルバー支援事業等地域でも活動を行っており、地域の健康づくりの成果に寄与している。その組織への支援は市民の健康づくりにつながっている。
達成度	3	参加者数は年度によって変動があり、伸びは見られないが、自主的な活動は幅広く行われている。
効率性	3	参加者に費用の負担をしていただけており、経費の削減は困難である。

総合評価	事業の方向性	改善についての取り組み
A	現状維持	事業の参加者を増やし、市民の食生活改善への意識向上につなげるため、推進員のスキルアップや事業の推進を支援する。